

ソウル街角ウオッチング

ソウルの街はハングルの洪水である。漢字の表示のほとんどない。街で耳慣れないことばを聞いていると、これがわが隣国なのかと不思議な気分になり、朝鮮語は本当に日本語に近い言語なのかと、いぶかしく思えてくる。韓国では朴大統領の時代に、国語浄化運動が行われて漢字がほとんど姿を消した。

약, 이발, 다방 などの看板が目につく。薬(yak)、理髪(i bal)、茶房(ta bang)である。「薬」は日本でも最近目にする「薬局」の看板である。理髪の理(り)は朝鮮語ではラ行の音は語頭にこないから朝鮮語では理(이・i)になる。髪(ハツ)の朝鮮漢字音は髪(발・pal)であるが、朝鮮漢字音では語中では濁音になって髪(bal)と読む。茶房(다방)の房(방・pang)も房(bang)と読む。

日本語も朝鮮語も、もともとは文字をもたないことばだったので、漢字と漢字文化圏の文化を取り入れてきた。日本と韓国は漢字を共有しているはずなのに、韓国では漢字はもはやほとんど使われていない。

食堂(식당・sik dang)に入って、冷麺(냉면・naeng myeon)でも食べて、麦酒(맥주・maek ju)でも飲みたいのだが、一步観光ルートをはずれると、メニューもすべてハングルだけで書かれている。しかし、何度か韓国を訪れているうちにハングルは表音文字だから、字数も少なく規則的で覚えやすいということがわかってきた。

料理(요리・yo ri)、冷麺(냉면・naeng myeon)、参鶏湯(삼계탕・sam gye ttang)、河豚湯(복어탕・pok eo tang)、肉醬(육장・yuk jang)、魚粥(어죽・eo juk)、麦飯(보리반・po ri ban)、豆腐(도부・to bu)、饅頭(만두・man du)、

発音は少しちがうが日本語とにているものが多い。河豚(ふぐ)、肉(ユッケ)、魚(うお)、豆腐(トウフ)、饅頭(マンジュウ)などである。

- 日本語の「ふぐ」は朝鮮語の河豚(pok)と同源である。河豚(복어・pok eo)のeoは魚の朝鮮漢字音、魚(어・eo)であり福魚ということになる。
- 韓国料理のユッケ(生肉)は日本でも食べられるが、古代中国語の肉[njiuk]の頭音[nji-]が脱落したものである。朝鮮語では中国語の日母[nji-]は規則的に脱落して日本は日本(il bon)となる。
- 朝鮮語の魚(어・eo)は古代中国語の魚[ngia]の頭音が脱落したものである。日本語の魚(うお)も朝鮮語と同源である。朝鮮語では中国語の疑母[ng-]は規則的に脱落する。現代中国語の魚(yu)と朝鮮語の魚(eo)、日本語の魚(うお)は古代中国語までさかのぼれば、いずれも同源だということになる。
- 朝鮮語のビールは麦酒(맥주・maek ju)だが、麦飯は麦飯(보리반・po ri ban)である。麦(maek)は音であり、麦(po ri)は朝鮮語の訓である。『古事記』に五穀の起源の話があ

り、速須佐之男之命に殺された大宜津比売の体から五穀が生まれたとされている。「頭は蚕になり、目は稲穂になり、耳からは粟が生まれた。鼻は小豆になり、陰(ほと)からは麦が生まれた。尻には大豆ができた」とされている。陰(poto)から麦(pori)が生まれたというのは、朝鮮語の語呂合わせである。朝鮮語では語尾の t は l になるから、陰(poto)と麦(pori)は近い。

○豆腐、饅頭は日本語も朝鮮語も中国語も同じで漢字文化圏の共通語ということになる。

町に買い物に出てみよう。韓国の通貨は완(won)である。ウオンとは中国語の「元」の朝鮮語読みで、古代中国語音は元[ngiuan]であり、現代北京音は元(yuan)である。日本漢字音の元(ゲン)は古代中国語音の痕跡を留めているが、古代中国語の疑母[ng-]は朝鮮漢字音では規則的に脱落するので元の語頭の鼻濁音[ng-]は朝鮮漢字音では失われるので、元(완・won)となる。現代中国語の元(yuan)は日本の円(yen)に近い。「円」の古代中国語音は円[hiuən]であり、元[ngiuan]に近い。[h] (喉音)は日本語にはない音であるが、調音の位置が後口蓋音の[ng]に近い。結局、日本の円(エン)も韓国の「ウオン」も中国語の元(yuan)も同源だということになる。

ソウルの中心街から地下鉄(지하철・チハチョル)に乗ってみることにする。ロッテホテルのすぐ前が시청である。시청(si-cheong)は「市廳」の朝鮮語読みである。

駅の表示はハングルで書いてあるが、もとは漢語であるものが多い。ハングルは表音文字だから、すこし頑張れば簡単に読めるようになる。

- ① 시청(si-cheong)、②을지로입구(eul-ji-ro-ip-gu)、③을지로삼가(eul-ji-ro 3 ga)、④을지로사가(eul-ji-ro 4 ga)、⑤동대문운동장(tong-dae-mun-un-dong-jang)、
⑩ 잠실(jam-sil)、

ソウルの地下鉄の駅にナンバーがついているから、ハングルが読めなくても迷うことはないが、外国でアルファベットも漢字も書いてない町を歩くのは不気味である。これを漢字を使って表記すれば次のようになる。

- ① 市庁、②乙支路入口、③乙支路三街、④乙支路四街、⑤東大門運動場、⑩蚕室、

○ハングルは音節文字で子音と母音の組み合わせでできている。日本語の五十音図でいうと、ア行(아)、カ行(가)、サ行(사)、タ行(다)、ナ行(나)、ハ行(하)、マ行(마)、ヤ行(야)、ラ行(라)、ワ行(와)のようになる。「ト」は母音の「ア」を表す。「○」は子音のないことを示し、ア(아)、ヤ(야)、ヨ(여)、ワ(와)のようになる。

○朝鮮語では語頭の清音は語中では濁音になるので、ハングルでは東大門(동대문운・tong-dae-mun)、運動場(운동장・un-dong-jang)のように語頭の東(동)は東(トウ)と読み、語中の動(동)は「ドウ」と読む。古代日本語でも語頭に濁音がくることはなかった。今でも「小林」は語中では濁音で小林「コバヤシ」と読み、語頭では清音で林「ハ

ヤシ」と読む。

- 母音の数は日本語より多く、カ行でみると가(ka)、갸(kya)、거(keo)、겨(kyeo)、고(ku)、교(kyo)、구(ku)、규(kyu)、구(keu)、기(ki)、
- ハングルは音節文字で一字が朝鮮語の一音節に対応していて、ハングル一字で漢字の韻尾を含めた一音節をあらわすことができる。庁(청・choeng)、東(동・tong)、動(동・dong)、場(장・jang)の韻尾の(ㅇ)はそれぞれ(-ng)をあらわす。また、乙支路入口(을로입구)の乙(을・eul)、入(입・ip)、乙支路三街の三(삼・sam)、東大門運動場(동대문운동장)の東大門동대문は門(문・mun)、運動場(문운동장)の運(운・un)はそれぞれ漢字の韻尾に対応している。
- 朝鮮漢字音では中国語の日母[nj-]は失われて入(ip)となる。「入口」は入口(ip)となり、「日本」は朝鮮語では日本(일본・il bon)となる。朝鮮漢字音では「入口」は入口(입구・ip-gu)となり、「出口」は出口(출구 chul-gu)である。いずれも中国語からの借用語である。日本語の「入」は入(ニユウ)であるが、古代中国語音は入[njiəp]であり、朝鮮漢字音のほうが古代中国語の韻尾[-p]の痕跡をよく留めている。
- 日本漢字音では門(モン)、三(サン)、運(ウン)、蚕(サン)の韻尾はいずれも「ン」であるが、朝鮮漢字音では門(문・mun)、三(삼・sam)、運(운・un)、蚕(잠・jam)のように区別されている。これは古代中国語の韻尾の違いを反映したものである。現代の北京語では[-m] [-n]の区別は失われて門(men)、三(san)、運(yun)、蚕(can)で、いずれも語尾はnになっているが、広東語では区別が保たれている。
- 「乙」、「室」の古代中国語音は乙[eat]、室[sjiet]である。古代中国語の韻尾の[-t]は朝鮮漢字音では規則的にlに変化する。「室」は朝鮮漢字音では室(sil)である。
- 朝鮮語ではラ行の音は語頭にこない。乙支路(을지로・eul-ji-ro)の「路」が路(로・ro)になっているのは語中にあるからで語頭では路(ro・ㄹ)に転移する。ロではじまる「ロッセホテル」はハイカラな外来語のイメージを韓国の人には与えるに違いない。老人や田舎の人は語頭にくる「ロ」の音は発音できないから「ノッセホテル」と発音してしまうはずである。

ここまでハングルが読めるようになればソウルの町も楽しくなる。買物の町이태원(梨泰院)に行くのもよし、骨董の町인사동(仁寺洞)にゆくのもよし、国立中央博物館を覗いてみるのにも怖いものはない。

仁寺洞には日本の民芸館を作った柳宗悦や、朝鮮の磁器に魅了された浅川伯教が愛したような高級品からお土産物まで目を楽しませてくれる。私は朝鮮の仮面に興味を惹かれてしまった。韓国にはタルチュムという仮面劇があって仮面をつかう。日本の能面のようなものもあるが、韓国の能面は顎が動くようにできているものもある。地方によってもさまざまな面があり、なかにはアフリカの面かと思われるようなものもある。

国立中央博物館では半跏思惟像が人気である。京都太秦の広隆寺にある半跏思惟像と瓜

二つで朝鮮半島の仏教と日本の仏教の関係の深さに心をうたれる。私が最初にソウルを訪れた時には、博物館は景福宮の前にあった日本の旧総督府の立派な建物を使っていたが、日本の植民支配の遺物として解体され、現在は新しい建物に移転している。韓国がすきになるにつれて歴史のわだかまりも気になるようになる。日本の終戦記念日は韓国では光復節、つまり植民地支配から解放されて光がよみがえった日である。

現在では韓流ドラマや韓国の演歌が日本でも親しまれているが、韓国ではかなり長い間、日本の大衆芸術は禁止されていた。日本の大衆芸術は俗悪で、儒教の教えを守る韓国にはふさわしくないというのである。韓国放送公社（KBS）の幹部と話によると、日本の大衆文化を受け入れたら、韓国は日本に文化侵略されて、韓国の映画会社もレコード会社もみなつぶれてしまうと本気で考えていたようである。ところが、その後日本は韓流ブームで韓国の歌や映画、テレビドラマが次々と流入してきている。やはり、日本人の感性と韓国人の感性には歴史的にみても共通のものが多いのではなかろうか。

釜山港へ帰れを原語で歌う

少し古くなるが、誰でも知っている「釜山港へ帰れ」を韓国語で歌ってみよう。

釜山港へ帰れ
つばき咲く春なのに あなたは帰らない
たたずむ釜山港に 涙の雨が降る
あついその胸に 顔うずめて
もいちど幸せ 噛みしめたいのよ
トラワヨ プサンハンへ 逢いたいあなた

日本語版はほとんど替え歌になっているが、朝鮮語は次の通りである。

꽃피는 동백섬에 花咲く冬栢島に

kott ppi neun tong paek seom e

○꽃피다(kott ppi da)：花が咲く、

○는(neun)：日本語の「～は」にあたる助詞で、朝鮮語は日本語と同じように助詞（接尾辞）をつけて単語を糊付けしていく膠着語である。

○동백섬(tong paek seom)：冬栢島、島(seom)は日本語の「島」と同源である。

○에(e)は場所、方向などをあらわす助詞で日本語の「～へ」「～に」にあたる。

봄이 왔건만 春がきたけれど

pom i wat keon man

○봄(pom)：春、이(i)は助詞で日本語の「～が」にあたる。

○왔다(wat da)：行ったり来たり

○견만(keon man) : ~たけれども、~だのに、

형제떠난 부산항에 兄弟が去って行った釜山港に

hyeong je nan pu san hang e

○형제(hyeong je) : 兄弟は中国語と同源で、古代中国語音は兄[xyeng]弟[dyei]であり、現代北京音は兄(xiang)弟(di)である。日本語の兄は兄(ケイ・キョウ)であるが、中国語の x あるいは h は日本語にはない喉音であり、調音の位置がカ行に近いため転移したものである。中国語、朝鮮語、日本語は同源だが朝鮮語のほうが中国語の原音に近い。

○부산항(pu san hang) : 釜山港の「港」の古代中国語音は港[heong]であり、日本語にはない喉音である。日本漢字音は喉音[h]は調音の位置の近いカ行音に転移しているが、朝鮮語では喉音[h]と後口蓋音[k]を区別している。

○에(e) : 場所、方向、時を表す助詞(接尾辞)で日本語の「~に」「=へ」にあたる。

갈매기만 슬피우네 카모메だけが悲しく泣いている

kal mae ki man seul ppi u ne

○갈매기(kal mae) : 日本語のカモメと同源である。

○기만(ki man) : あったけの力で

○피우다(ppi u da) : 騒ぎ立てる、朝鮮語には日本語と同じように動詞の活用があって、基本形(辞書に載っている形)は피우다(ppi u da)である。日本語の「だ」「である」に近い。

○ㅍ(pu)は語中ではㅍ(b)と読むが、語中で清音にする場合はㅍ(pp)を用いる。(k)ㅍ(kk)、ㄷ(t)ㅍ(tt)の場合も同じである。

○네(ne)は日本語の「~だよね」の「ね」に近い。

오륙도 돌아가는五六島を回りゆく

o ryeok to tol a ka neun

○오륙도(o ryeok to) : 五六島、朝鮮語の「島」は音は島(to)、訓は島(섬・seom)で日本語の島(しま)に近い。

○돌아가다(tol a ga da) : 回る、

○는(neun) : 1. 日本語の「~は」にあたる助詞。2. 進行中であることを表す接尾辞。ここでは「2. 進行中であることを表す接尾辞」である。

연락선 마다 連絡船ごとに

yeon rak seon ma da

○연락선(yeon rak seon) : 連絡船、朝鮮語ではラ行音が語頭にくることがないからイ段(li、le)では頭音が脱落し、それ以外では l は n に転移する。二音節目では락(rak)となってラ行であられる。アルファベット表記では頭音は r、語中、語尾では l で表記するのが慣例である。

○마다(ma da) : ~ごとに、~たびに、

목메어 불러봐도 のどを鳴らして呼んでも

mok me eo pul reo pwa do

○목메다(mok me da) : 悲しみや感動で喉がつまる、むせぶ、

○불러다(pul reo da) : 呼ぶ、

대답 없는 내형제여 返事がない我が兄弟よ

tae dap eops neun nae hyeong je yeo

○대답(tae dap) : 대(tae)は漢字で書けば「対」、답(tap・dap)は古代中国語の答[təp]と同
源で、「対答」つまり「答え、返事」である。

○없다(eop da) : ~ない。

○는(neun) : 1. ~である。2. 現在進行中を表す。

○내(nae) : 私、私の、

○형제(hyeong je) : 兄弟。「兄」の古代中国語音は兄[xyung]である。[x][h]は喉音で日
本語にはないからカ行に転移する。朝鮮語では原音を保っている。

○여(yeo) : 助詞、日本語の「~よ」に似ている。

돌아와요 부산항에 帰ってこいよ、釜山港へ

tol a wa yo pu san hang e

○돌아와요(tol a wa yo) : トラワヨ・帰る、

○부산항(pus an hang) : 釜山港。「港」の古代中国語音は港[heong]である。日本語では
カ行に転移するが、朝鮮語では(h)であられる。

그리운 내형제여 愛しい我が兄弟よ

keu ri un nae hyeong je yeo

○그리다(keu ri da) : 恋慕う。朝鮮語には日本語と同じように動詞には活用形があり、基
本形(辞書に載っている形)は그리다(keu ri da)である。

○내형제(ne hyeong je) : 私の兄弟、

日本では最近では電車の優先席に英語(priority seat)、中国語(尤先坐位)、朝鮮語(노약
석)の表示が見られるようになったが、朝鮮語はまだなじみの薄いことばである。「尤先坐
位」は「優先座位」、노약석は(no yak seok)、「老若席」あるいは「老弱席」であるが、
まだハングルを読める日本人は少ない。しかし、朝鮮語は日本語と文法の構造がほとんど
同じであり、語彙も中国語からの借用が多いのである。日常語でも、漢字をあててみると
知っていることばが多い。

こんにちは 양녕하심까 (アンニョンハシムニカ) は「安寧ですか」であり、
ありがとうございます 감사합니다 (カムサハムニダ) は「感謝しています」である。

大野晋は五本古典文学体系(岩波書店)の月報59で次のように述べている。

漢字の字音については頼惟勤氏、朝鮮語については張暁氏に示教を仰いだところがあ
る。これらの方々にあつく感謝の意を表したい。

朝鮮語といえば、第一冊に、朝鮮語と日本語との間で、同源と思われる単語四十たらずを掲げたところ、大いに歓迎された向きもあり、また、無用の長物として非難排斥される向きもあった。日本語の語源は、とかく不明のまま放置されやすいので、多少なりと、確実と思われるものを提示することは無意味なこととは思わない。それにわずか四十語ほどの記載がそれほどの関心と呼ぶものとも私は思わなかった。その後『日本語の起源』(岩波新書)を書く機会が与えられ、旧作を書き改めたことがある。私はその中に、手持ちの朝鮮語と日本語との対照の語彙を表示したので、それからは朝鮮語を万葉集の中に書き込むことを、あまりしないように心がけた。(日本古典文学大系第7巻附録より)

この文章は昭和37年に書かれたものである。日本人のなかには、万葉集のような日本を代表する古典のなかに、朝鮮語と語源を同じくすることばが点在するということはあってはならないことだ、「やまとことばは純粹である」と考える人がかなりいる。しかし、日本の歴史は、時代を遡ればさかのぼるほど、中国文化や朝鮮半島の文化との接触によって、国際化のなかで形成されていることがわかる。

音韻変化の法則

ヨーロッパの言語では音韻変化の法則性がみられる。たとえばp(サンスクリット、ギリシャ語、ラテン語などの)が、ゲルマン語に移るときにfになる。たとえばラテン系のフランス語のpère(父)は英語ではfatherになり、またフランス語のpiedは英語でfootとなるというぐあいである。

英語の魚(fish)はドイツ語(Fisch)、フランス語(poisson)につながり、西ヨーロッパ群のゴート語(fisks)、ラテン語(piscis)などの対応がある。また、数字の「百」の対応することばは、英語(hundred)、ドイツ語(hundert)、ラテン語(centum)、フランス語(cent)であり、語源がおなじである。

古代朝鮮語のなかには、古代日本語と同じように、中国語からの借用語が多い。中国語からの借用語は朝鮮語では音韻の転移を受けるが、その転移の仕方には一定の法則性がみられる。それえはまた、古代日本語にもあてはまる。

[古代中国語音]	[現代北京音]	[朝鮮漢字音]	[日本語・音・訓]
----------	---------	---------	-----------

○流音[l-]

柳[liu]	liu	yu	リュウ・やなぎ
梁[liang]	liang	yang	リョウ・やな
良[liang]	liang	yang	リョウ・よき・よい
粒[liəp]	li	ip	リュウ・つぶ・いぼ
浪[lang]	lang	nang	ロウ・なみ
流[liu]	lio	yu	リュウ・ながれ
龍[liong]	long	yong	リュウ・たつ

朝鮮語ではラ行音が語頭にいくことがない。このため、ラ行音は次に母音イが来る場合には脱落し、その他の母音が続く場合にはナ行に転移する。古代日本語でもラ行音が語頭に立つことはなかったので、中国語の li は脱落すか、ナ行またはタ行に転移する。ラ行、ナ行、タ行はいずれも歯茎の裏で調音される音であり、転移しやすい。日本語の訓は朝鮮漢字音の痕跡を留めているといえる。

○疑母[ng-]

魚[ngia]	yu	eo	ギョ・うお
御[ngia]	yu	eo	ギョ・お・おん
顎[ngak]	e	ak	ガク・あご
牛[ngiu]	niu	u	ギユウ・うし
我[ngai]	wo	a	ガ・あ (古語)・われ
仰[ngiang]	yang	yeong	ギョウ・あおぐ

朝鮮漢字音では濁音が語頭に立つことはない。そのため中国語の疑母[ng-]は規則的に脱落する。日本語の訓は疑母[ng-]の脱落したものである。「牛」の朝鮮語は소(so)であり、日本語の牛(うし)は朝鮮漢字音の牛(u)に朝鮮語の訓소(so)を重ねたものである。

○日母[nj-]

柔[njiu]	rou	yu	ジュウ・やわら
弱[njiôk]	ruo	yak	ジャク・よわい
茹[njia]	ru	yeo	ジョ・ゆでる
如[njia]	ru	yeo	ジョ・いかに (如何)
潤[njiuən]	run	yun	ジュン・うるおう
閏[njiuən]	run	yun	ジュン・うるう
軟[njiuan]	ruan	yeon	ナン・やわらかい
讓[njiang]	rang	yang	ジョウ・ゆずる

朝鮮漢字音では中国語の日母[nj-]は規則的に脱落して日本は일본 (イルボン) になる。日本語の訓は朝鮮漢字音を継承しているといえる。

○喉音[x-][h-]

火[xuəi]	huo	hwa	カ・ひ
花[xoa]	hua	hwa	か・はな
惚[xuət]	hu	heul	コツ・ほれる
哮[xeu]	xiao	hyo	コウ・ほえる
壕[hau]	hao	ho	ゴウ・ほり
幌[huang]	huang	huang	コウ・ほろ
匣[heap]	xia	hap	コウ・はこ
挟[hyap]	xie	hyeop	キョウ・はさむ

中国語の喉音 ([x-][h-]) は日本語にはない音であり、日本漢字音ではカ行に転移し、

訓ではハ行であらわれることが多い。

○韻尾[-t]

払[piuat]	fu	pul	フツ・はらう
祓[buat]	fu	pul	フツ・はらう
出[thjiuət]	chu	chul	シュツ・でる
擦[tsheat]	ca	chal	サツ・する
掘[giuət]	jue	kul	クツ・ほる
切[tsyet]	qie	jeol	セツ・きる
越[jiuat]	yue	weol	エツ・こえる

中国語の韻尾[-t]は音ではタ行であらわれ、訓ではラ行であらわれることが多い。朝鮮漢字音では規則的に(-l)に転移する。

○韻尾[-p]

蝶[thyap]	die	jeop	チョウ・てふ
給[xiəp]	ji	keup	キュウ・くばる
峽[kyap]	jia	hyeop	キョウ・かひ（山峽）
甲[keap]	jia	kap	コウ・かぶと（甲兜）
頬[kyap]	jia	hyeop	キョウ・ほお・ほほ
渋[shiəp]	se	sap	ジュウ・しぶい

「蝶」は旧かなづかいでは蝶（てふ）であった。「てふ」の「ふ」は中国語の韻尾[-p]の痕跡を留めたものである。

○韻尾[-ng]

景[kyang]	jing	kyeong	ケイ・かげ
莖[heng]	jing	kyeong	ケイ・くき
床[dzhiang]	chuang	sang	ショウ・とこ・ゆか
双[sheong]	shuang	ssang	ソウ・すごろく（双六）
楊[jiang]	yang	yang	ヨウ・やなぎ・やぎ

中国語の韻尾[-ng]は日本語の訓ではカ行であらわれることがある。中国語の韻尾[-ng]の上古音は[-k]に近かったと考えられている。景（かげ）、莖（くき）などは上古中国語音の痕跡を留めているものと考えられる。

○韻尾[-n][-m]

金[kiəm]	jin	keum	キン・かね
君[giuən]	jun	kun	クン・きみ
絹[kyuan]	juan	kyeon	ケン・きぬ
肝[kan]	gan	kan	カン・きも
蟬[zjian]	chan	seon	ゼン・せみ

このように比べてみると、日本語の訓とよばれるもののなかには、漢字の朝鮮語読みと同じ音韻の転移が含まれていることがわかる。「やまとことば」は日本列島に中国文明の波が押し寄せて、中国語の語彙が日本語の中に入ってくる前の純粋な日本語などではなく、記紀万葉以前の時代に朝鮮半島をへて日本語に入ってきた中国語がかなり含まれているということがわかる。これらの訓は弥生時代から古墳時代にかけて、日本語が中国語から借用した語彙であることは間違いあるまい。しかも、その読み方は朝鮮漢字音の影響を強く受けている。

朝鮮半島で今つかわれている言語を朝鮮語と呼ぶか、韓国語と呼ぶかは議論の多いところである。NHKが朝鮮語講座を開設したとき、在日の韓国人グループは韓国語講座を主張し、北朝鮮グループは朝鮮語講座を主張し、なかなか講座の開設に至らなかった。数年間議論が続いた後、結局「ハングル講座」ということで講座は開設された。しかし、「ハングル」は文字であって言語ではない。

現在ではことばは国家と結びつけてとらえられることもある。中国語などである。しかしことばは国家がつくったものではない。日本にも国語ということばはあるが、日本語は日本国語とは言わない。英語やフランス語、ドイツ語も国家語ではない。国はそれぞれ、多くの国民が使っていることばを公用語として認めているだけである。

この原稿では韓国語でも朝鮮語でもなく、日本人になじみ深い朝鮮半島のことばという意味で朝鮮語ということばを使った。それでも、韓国側から見れば朝鮮半島は韓半島なのであり、日本海は東海なのである。

次回は中国語